

## COPMニュース 第29号

発行日：2018.12.28 発行者：吉川ひろみ  
県立広島大学保健福祉学部 〒723-0053 三原市学園町1-1  
TEL 0848-60-1236 FAX 0848-60-1134  
E-mail [yosikawa@pu-hiroshima.ac.jp](mailto:yosikawa@pu-hiroshima.ac.jp)  
<https://hiromiosotpb.jimdofree.com/>

COPM Newsがあるのを、知っていますか？  
過去の記事は、サイトから閲覧できます。

<http://www.thecopm.ca/news/>

では、COPM December 2018 Newsletter  
から論文情報を紹介します。

世界各国で、多様な疾患の人に、クライアント  
中心の実践が行われていて万歳ということ  
です。

イタリアのリハビリテーション病棟の脳卒  
中の入院患者16人を対象に、COPMをしたら  
セルフケアの問題が75%ともっとも多く、生  
産活動が15%、レジャーが10%でした。入院  
中はセルフケアが重視されるけど、他の作業ニ  
ーズもあるので、クライアント中心のプログラ  
ムをしましょう。(Schiavi, M., Costi, S.,  
Pellegrini, M., Formisano, D., Borghi, S. &  
Fugazzaro, D.(2018). Occupational therapy  
for complex inpatients with stroke:  
identification of occupational needs in  
post-acute rehabilitation setting.  
Disability and Rehabilitation, 40(9),  
1026-1032.

<https://doi.org/10.1080/09638288.2017.1283449>

まだ、こういう研究があるんですね。脳卒中  
急性期にはセルフケアだけをするという圧力  
に抵抗するためには、必要な論文なのかもしれ  
ません。

アイルランドで、ストレスを経験している人  
12名が、6週間のストレスマネジメント・健康  
プログラムに参加したら、COPMの遂行と満  
足、不安と主観的ストレスが改善しました。対  
象者はインタビューで、このプログラムにより  
ストレスの意識化とマネジメント法の習得が  
できたと言いました。(Connolly, D.,

Anderson, M., Colgan, M., Montgomery, J.,  
Clarke, J. & Kinsella, M. (2018). The impact  
of a primary care stress management and  
wellbeing programme (RENEW) on  
occupational participation: A pilot study.  
British Journal of Occupational Therapy.  
<https://doi.org/10.1177/0308022618793323>)

カナダで、軽度身体障害のある青年28名に、  
12週間のPREPというプログラム(個別に選ば  
れた作業ができるように環境バリアを除去す  
る)を行った結果、すべての活動で改善し、  
59%がCOPMで2点以上向上し、20週後のフォ  
ローアップでも0.66ポイント向上しました。環  
境を変えるだけで参加は改善するよというこ  
とです。(Anaby, D.R., Law, M., Feldman, D.,  
Majnemer, A., & Avery, L. (2018). The  
effectiveness of the Pathways and Resources  
for Engagement and Participation (PREP)  
intervention: improving participation of  
adolescents with physical disabilities.  
Developmental Medicine & Child Neurology,  
60(5), 513-519.

<https://doi.org/10.1111/dmcn.13682>

以前、環境だけ変えるプログラムと通常の機  
能回復プログラムで比較したときに、有意差が  
なかったという論文があったと記憶していま  
す。有意差がないなら、環境だけ変えた方が、  
手間暇かからず、お得ですね。

ニュージーランドのシングルサブジェクト  
デザインの研究で、6週間の感覚調整プログラ  
ムにより、不安が減少し作業参加が改善しまし  
た。(Wallis, K., Sutton, D., & Bassett., S.  
(2017). Sensory modulation for people with  
anxiety in a community mental health  
setting. Occupational Therapy in Mental  
Health, 34(2), 122-137.

<https://doi.org/10.1080/0164212X.2017.1363681>

感覚統合のエビデンスのためにCOPMを使うおうという話は以前からありました。著者も言っていますが、子ども本人のCOPMも知りたいですね。7歳以上でしょうけど。

アメリカで、CI療法を受けた41名の片麻痺の子ども（平均3.7歳）の記録を調べたら、治療前後で、親に行ったCOPMの遂行と満足が有意に向上していました。(Reidy, T.G., Naber, E., & Stashinko, E. (2018). Participation is the goal: Canadian Occupational Performance Measure changes after constraint-induced movement therapy. (2018). *Annals of International Occupational Therapy*, 1(1), 7-14.

<https://doi.org/10.3928/24761222-20180212-05>

オーストラリアの脳性まひのボツリヌス治療のプロトコルにCOPMが入っているという話を聞きました。CI療法でも使っているのはいいですね。

11月号には、ランダム化比較試験の成果指標の一つにCOPMが使われていました。介入群は99人の高齢者で、集中的クライエント中心の作業療法（ICC-OT）を11週間に22回の訪問で受けました。対照群は60名で通常の集団プログラムとヘルパー訪問が主でした。最後の3か月は両群が対照群と同じプログラムを受けました。介入群は対照群より、3か月後と6か月後でCOPMの遂行と満足が有意に改善し、AMPSとSF-36も、介入群の方が改善していました。ICC-OTの効果は、ICC-OTが終了した後も続くと言っています。(Nielsen, T.L., Andersen, N.T., Petersen, K.S., Polatajko, H., & Nielsen, C.V. (2018). Intensive client-centred occupational therapy in the home improves older adults' occupational performance. Results from a Danish randomized controlled trial. *Scandinavian Journal of Occupational Therapy*.

<https://doi.org/10.1080/11038128.2018.1424236>

診断名や年齢を問わずCOPMが使えるので、皆さんもどんどん使ってください。

日本語訳は、次のサイトから購入できます。  
<http://www.thecopm.ca/buy/translations/>

2018年は9月に、カナダモデルの本が出版されました。星の王子さまのことを考えながら数か月を過ごして、ふわふわしていました。

心の中に王子さまが来てくれた感じがしました。これまでに会った作業療法士たちを思い出したりしたので、作業療法士になってから見た風景を、もう一度見たような気持ちになりました。

この本に登場する作業療法士のタイプのどれが自分に近いかを話した人もいます。

最近の「作業療法理論」の授業で、学生たちが自分で選んだ理論やアプローチ法を調べて発表しました。

授業後の学生のコメントやレポートで気づいたことがありました。

- やっぱり学生は、機能を回復させる人になりたい
- やっぱり学生は、クライエント中心では、セラピストは提案したりしないと思っている
- 学生は、理論が違っていると作業療法の実践内容が変わると聞いて驚く
- 学生は、クライエントがしたい作業をできるようにするだけでは物足りないと思っている

今日で仕事納めです。よいお年をお迎えください。

